

令和6年度 第3回 直江津区地域協議会

次 第

日時：令和6年8月20日（火）午後6時30分～

会場：レインボーセンター 3階 第三会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

【自主的な審議】

- ・直江津まちづくり構想について

- ・委員間での意見交換

4 そ の 他

- ・次回地域協議会

令和6年 月 日（ ）午後6時30分～ レインボーセンター

5 閉 会

上越市通年観光計画 概要

令和6年8月20 日(火)
直江津区地域協議会 配布資料

なぜ、上越市で「観光」に取り組む必要があるの？

● 担い手不足により、歴史・文化の伝承の危機

人口減少の影響として、空き家の増加やそれに起因する街並みの喪失、さらには地域経済の規模縮小などが懸念されています。

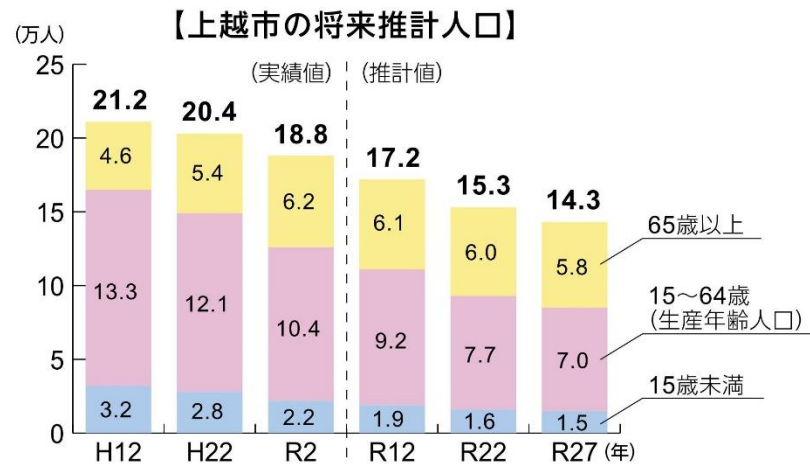
また、地域資源を守り、生かす「担い手」も減少していくため、これまで守り伝えられてきた大切な歴史や文化が失われてしまう恐れがあります。

● 地域課題を解決するための「観光」

これらの課題解決に向けて、地域資源を生かした新たな生業創出による歴史・文化の伝承や、交流人口の拡大による消費額の向上が期待できる観光の活性化に取り組む必要があります。

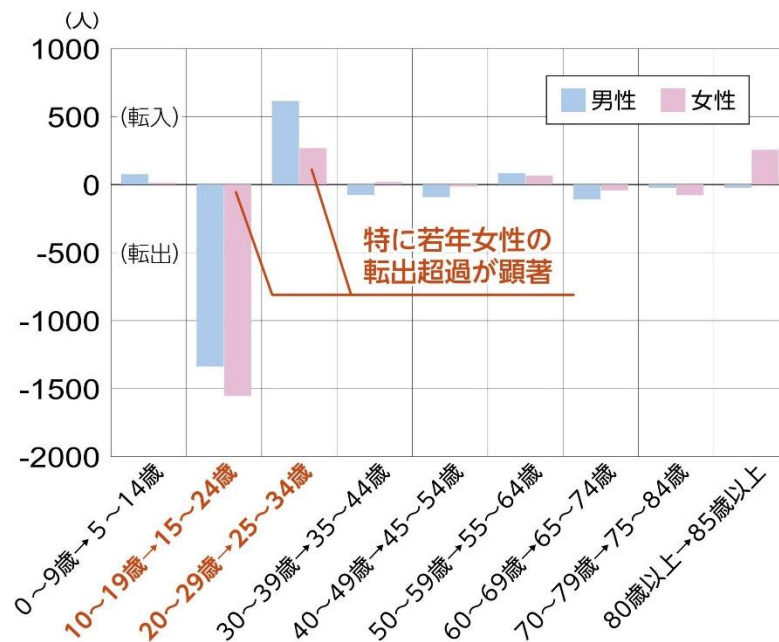
また、若者が働きたくなる産業や起業しやすい分野の一つとして「観光」の取り組みを推進します。

【出所】
平成22年と平成27年の
総務省「国勢調査」人口
と生残率を用いて推定し
た値を基に作成



出所:総務省「国勢調査」および、国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口(H30年3月推計)」 ※令和2年の数値は不詳補完値

【年代別に見た5年間の転入超過・転出超過(純移動数)】



●旅行消費額が非常に少ない

上越市に訪れた旅行者が市内で消費する金額（旅行消費額）は、全国や新潟県の平均と比べると非常に少なく、特に県外からの日帰り観光客1人当たりの旅行消費額は、県平均の半分以上となっています。

滞在場所・滞在時間が少ないことが消費場所・消費機会が少ないことにつながっていると考えられます。

【旅行者1人当たりの平均消費額】

	全 国		新潟県	上越市
日帰り旅行	17,334円	(県外客)	10,824円	4,345円
宿泊旅行	55,054円	(県内客)	25,133円	13,167円
		(県外客)	34,713円	17,380円

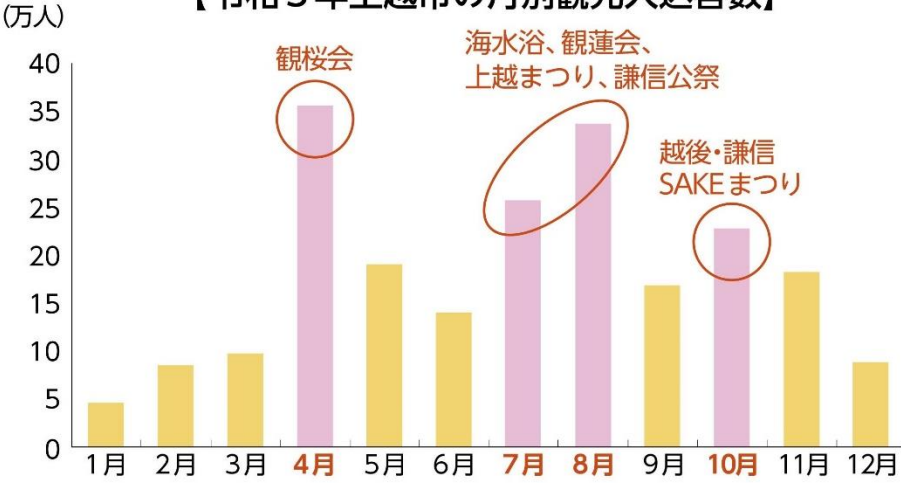
県平均に比べ少ない

出所：上越市観光データ集2021（2019年データ）、全国観光入込客統計2019、旅行・観光消費動向調査2019を基に作成

●現状は「イベント観光」の傾向

春の観桜会や夏の謙信公祭などで一定の集客があります。一方で、一時的な集客は生業^{なりわい}につながりにくく、歴史・文化を伝承していくためには、ビジネスが生まれやすい一年を通した集客が必要です。今あるイベントも大切にしつつ、イベント開催以外の時期に当市を訪れる旅行者の底上げを目指します。

【令和3年上越市の月別観光入込客数】



出所：上越市の観光に関するデータ集2023

「住んでよし」、「訪れてよし」のまちを目指して

「観光」を手段として、歴史・文化を伝承していくため、その基本方針や目標・さまざまな取り組みなどをまとめた「上越市通年観光計画」を策定しました。本計画に基づき、上越市ならではの歴史・文化の伝承はもとより、市民の皆さんのまちへの愛着や誇りの醸成、さらには、地域資源を生かした生業の創出など、持続可能なまちの形成を目指します。



上越市通年観光計画の概要

計画期間

令和6(2024)年度

令和12(2030)年度

本計画について、詳しくは市ホームページをご覧ください。



目指す姿

歴史・文化の伝承

目的(あるべき姿)

来訪者が市民の日常に
溶け込み楽しむ観光地域

目標(具体的指標)

はんぼう
繁忙期(4月、7月、8月)以外の
入り込み客数の底上げ

手段(目標を達成するための方法)

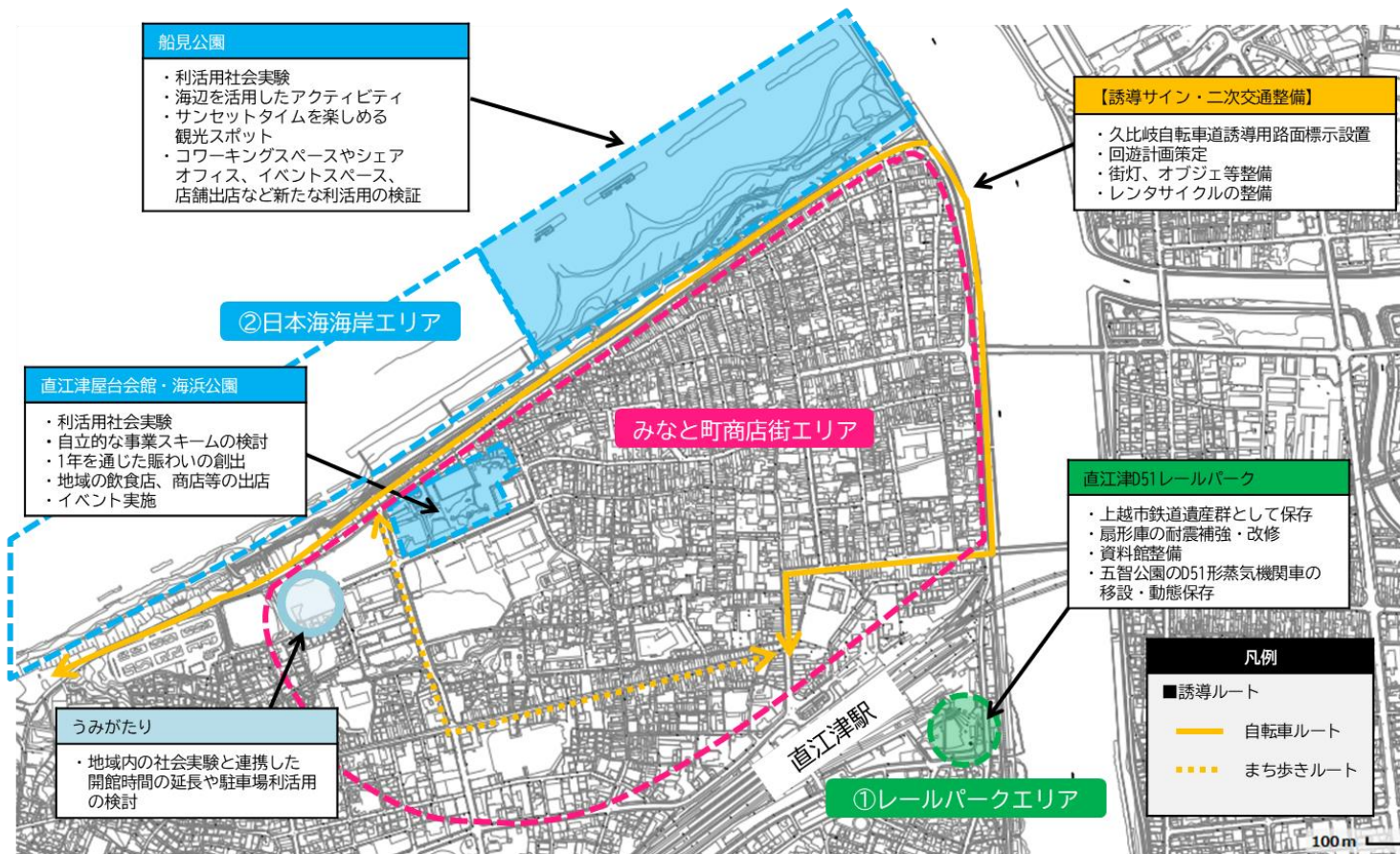
観光の取り組みを通じて、
持続可能なまちを形成

(=観光地域づくり)

まずは春日山・直江津・高田の3つの地域で観光を底上げし、歴史・文化を生かした観光地域づくりと旅行消費額アップに向け集中的に取り組んでいきます。

- 観光地域づくりコンセプトである”歴史と人情の「日本海うみまち」”の実現に向け、地域資源・エリア特性に沿って事業を展開する。

【概算事業費1,005百万円】



※計画期間である令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により実施を判断する。

説明

- 直江津地域では、市内の鉄道遺産を「上越市鉄道遺産群」として保存・活用・継承する。新潟県鉄道発祥の地「直江津D51レールパーク」に鉄道遺産の一つである、五智公園のD51形蒸気機関車を移設する。
- 「直江津屋台会館・海浜公園」や「船見公園」に、飲食や物販を営む人が出店し、移げる仕組みづくりを行い、地理的利点をいかした賑わいを創出する。また、一体的なエリアマネジメントを担うまちづくり組織の立ち上げに向け、収益化スキームを構築するための社会実験を行う。

直江津地域：エリア別施策展開

① レールパークエリア

- 市内全域の各種鉄道遺産を「上越市鉄道遺産群」として保存し、一時代を支えた鉄道の歴史や文化を後世に伝えていく。
- その取組の一環として、新潟県鉄道発祥の地である「直江津D51レールパーク」を一部鉄道遺産の集約施設として位置付け、整備・保全・継承していく。
- 五智公園のD51形蒸気機関車を移設・動態保存し、乗車体験や運転体験を行う。

主な事業内容

(1) 上越市鉄道遺産群活用事業

① 上越市鉄道遺産群活用基本計画の策定

市内鉄道遺産の現状把握及び評価を行うとともに、市独自の認定制度について検討し、上越市鉄道遺産群活用基本計画を策定する。
資料展示機能・集客機能の拡充や扇形庫の耐震補強、五智公園のD51形蒸気機関車の移設・動態化を見込んだ直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館)の基本構想を策定する。

(2) 鉄道博物館整備事業

② 直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館)

- 基本設計・実施設計
上越市鉄道遺産群活用基本計画を受けて、直江津D51レールパークの拡充に向けた設計を行う。
- 整備工事
扇形庫の耐震改修、鉄道遺産の展示、資料館等の整備を行う。

(3) D51形蒸気機関車75号機 移設・動態化事業

③ D51形蒸気機関車75号機 移設・動態保存

五智公園のD51形蒸気機関車を直江津D51レールパークに移設し、圧縮空気を動力源とするコンプレッサー方式で動態保存し、乗車体験や運転体験を行う。

スケジュール	前期 (R6～R8)	中期 (R9～R10)	後期 (R11～R12)
①上越市鉄道遺産群活用基本計画の策定	計画策定		
②直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館)		建設・改修	
③D51形蒸気機関車75号機 移設・動態保存	関係者調整	移設・動態化	

概算事業費	(百万円)
①上越市鉄道遺産群活用基本計画の策定	10
②直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館)	464
③D51形蒸気機関車75号機 移設・動態保存	64

直江津地域：エリア別施策展開

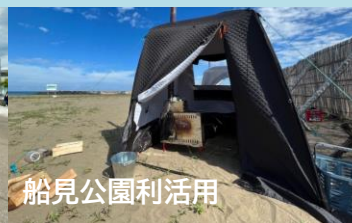
②日本海海岸エリア



- 「直江津屋台会館・海浜公園」と「船見公園」において、地域の活性化に資する施設の利活用に向けた**社会実験**を行う。
- 実験結果を基に、各施設に必要な**改修、備品配置等を行う。**
- 「直江津屋台会館・海浜公園」では、**年間を通じて賑わいを創出し**、利活用が生業として継続できる事業スキームの構築を目指し、実験結果を踏まえ地域を一体的にマネジメントできる組織を検討する。



直江津屋台会館・海浜公園
利活用



船見公園利活用



アクティビティ

主な事業内容

(1)直江津屋台会館・海浜公園利活用

①直江津屋台会館・海浜公園利活用社会実験・自立的な事業スキームの検討

- 新たな観光産業や賑わい拠点の創出、直江津地域を一体的にマネジメントできるまちづくり組織の検討を目的とし、社会実験を行う。
- うみがたりへの来場者をターゲットに、年間を通じた新たな賑わいを創出する。
- 定期的なイベントや飲食、物販の出店を行うことで、飲食店等を営む地域の人が気軽に店でき、稼げる仕組みの構築を目指す。
- 実験結果をもとに、収益を得ながら生業として継続できる事業スキーム、当該スキームを基盤としたまちづくり組織の実現可能性の検討、屋台会館及び海浜公園の環境整備に繋げる。

②直江津屋台会館・海浜公園環境整備

社会実験での検証を基に必要な施設改修、備品配置等を行う。

③直江津屋台会館・海浜公園利活用試験運用・本運用

環境整備後の試験運用を経て、本運用を目指す。

(2)船見公園利活用

④船見公園利活用社会実験

- 新たな目的地・回遊拠点・賑わいの創出を目的とし、社会実験を行う。
- 海辺を活用したアクティビティの体験やサンセットタイムのゆったりとした時間を楽しめる空間の演出、海を感じることができるコワーキングスペースやシェアオフィス、店舗出店新たな利活用の検証を行う。
- 直江津屋台会館・海浜公園の社会実験同様、収益を得ながら生業として継続できる事業スキームを構築するとともに、環境整備に繋げる。

⑤船見公園環境整備

社会実験での検証を基に必要な施設改修、備品配置等を行う。

⑥船見公園利活用試験運用・本運用

環境整備後の試験運用を経て、本運用を目指す。

スケジュール

	前期 (R6～R8)	中期 (R9～R10)	後期 (R11～R12)
①直江津屋台会館・海浜公園利活用社会実験 ・自立的な事業スキームの検討	社会実験		
②直江津屋台会館・海浜公園環境整備	社会実験を踏まえた環境整備		
③直江津屋台会館・海浜公園利活用		運用開始	
④船見公園利活用社会実験		社会実験	
⑤船見公園環境整備			社会実験を踏まえた環境整備
⑥船見公園利活用			運用開始

概算事業費

	(百万円)
①直江津屋台会館・海浜公園利活用社会実験 ・自立的な事業スキームの検討	30
②直江津屋台会館・海浜公園環境整備	163
③直江津屋台会館・海浜公園利活用	0
④船見公園利活用社会実験	30
⑤船見公園環境整備	170
⑥船見公園利活用	0

※船見公園の利活用については、令和6年能登半島地震を受け、社会実験実施までの間に防災面からの検討をさらに行うこととする。

※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあたっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。

※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあたっては、議会の審議を経て決定する。

直江津地域：エリア別施策展開

回遊動線



- 二次交通の検討を行うため、海沿いにおいて、**レンタサイクルの整備**を行う。
- 誘導サインや、歓迎ムードづくりのための街灯、オブジェ等の整備を行う。



レンタサイクル整備



路面標示設置

主な事業内容

(1) 誘導サイン整備

① 久比岐自転車道誘導用路面標示設置事業

直江津駅から久比岐自転車道の区間において、路面標示を設置し、サイクリストが迷わず、安全にサイクリングを楽しむことができる環境を提供する。

② 回遊計画策定

表示する内容や設置位置、意匠を定めたサイン、街灯、オブジェ等の整備など、回遊に関する計画を策定し、来訪者の回遊性の向上を図る。

③ 街灯及びオブジェ等整備

回遊計画を踏まえ、誘導や歓迎ムード演出のため、街灯及びオブジェ等を整備する。

(2) 二次交通整備

④ レンタサイクル整備

海沿い周辺において、レンタサイクルを整備する。

スケジュール

	前期 (R6～R8)	中期 (R9～R10)	後期 (R11～R12)
① 久比岐自転車道誘導用路面標示設置事業	路面標示設置		
② 回遊計画策定			計画策定
③ 街灯及びオブジェ等整備			整備
④ レンタサイクル整備	実証実験	本運行	→

概算事業費

	(百万円)
① 久比岐自転車道誘導用路面標示設置事業	2
② 回遊計画策定	3
③ 街灯及びオブジェ等整備	56
④ レンタサイクル整備	13

※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。

※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあたっては、議会の審議を経て決定する。

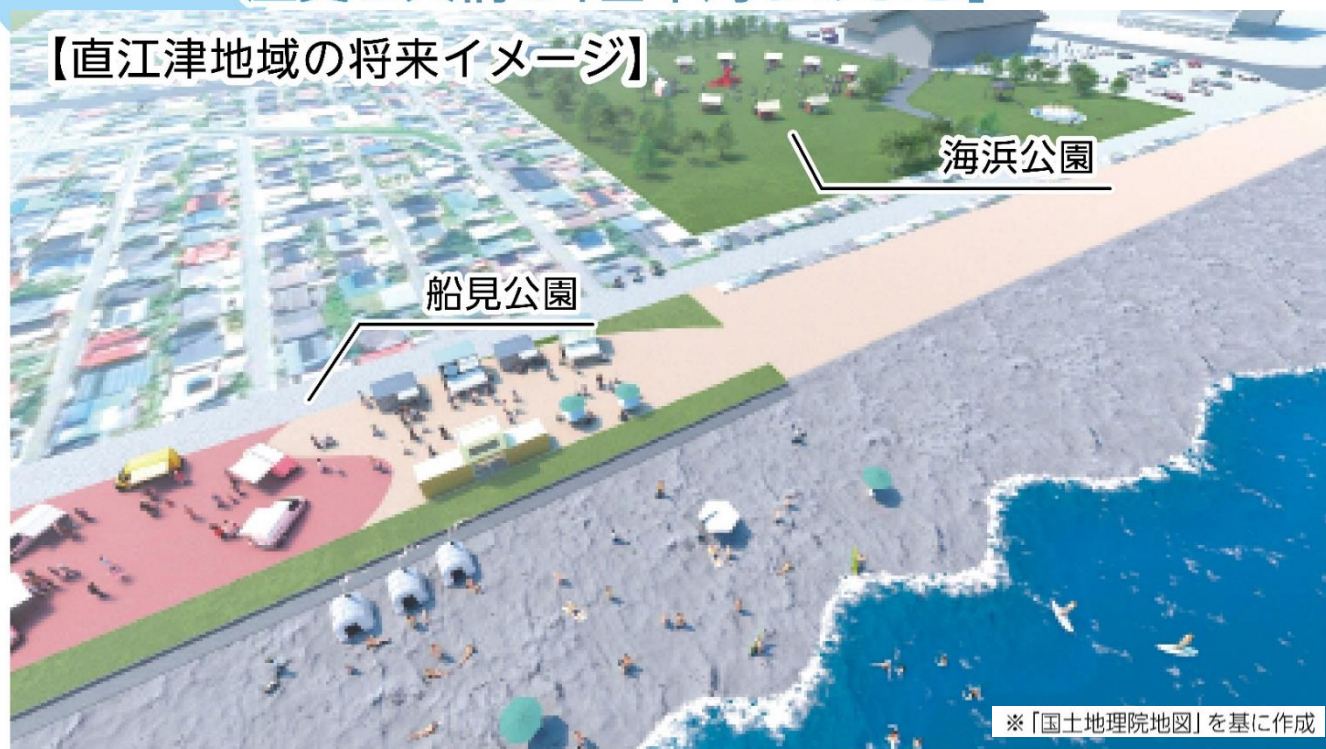
直江津地域：コンセプト、将来イメージ

直江津

観光地域づくりコンセプト

歴史と人情の「日本海うみまち」

【直江津地域の将来イメージ】



主な施策

- 直江津屋台会館・海浜公園利活用社会実験
- 船見公園環境整備
- 直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館)
- D51形蒸気機関車75号機 移設・動態保存

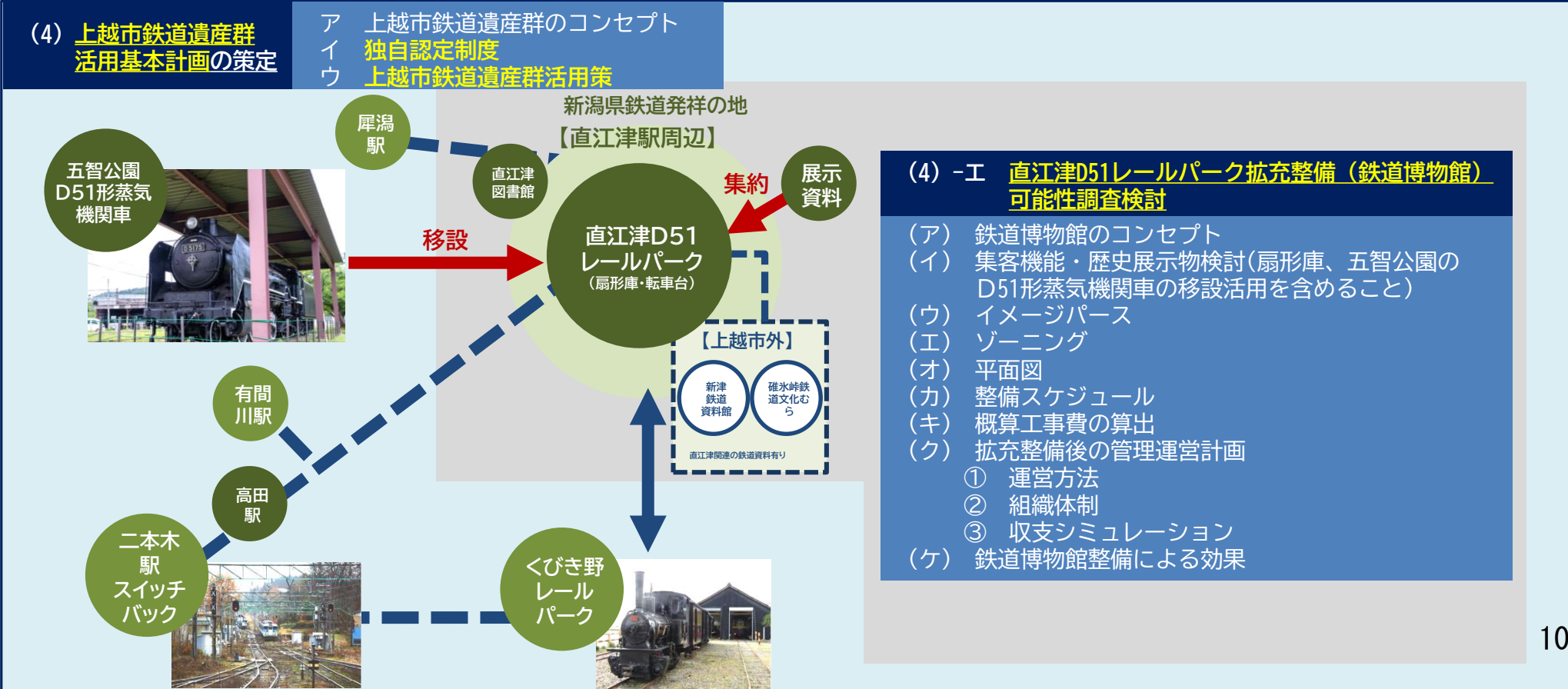
事業名	事業費 (千円)	事業内容
上越市鉄道遺産群活用基本計画策定	9,911	直江津D51レールパークの拡充(五智公園D51移設等)検討や市内鉄道遺産の活用計画を策定
直江津屋台会館等を活用した新たな観光産業創出社会実験	14,982	飲食や物販を営む人が出店し、稼げる仕組みづくりを行い、地理的利点をいかした賑わいを創出
久比岐自動車道誘導用路面標示	1,518	直江津駅から久比岐自転車道へのアクセスルートを示す矢羽根を設置

目的

・市内に点在する鉄道に関する魅力的な資産を鉄道遺産として認定し、保全・継承を目指すとともに観光素材として活用を図る。

(1) 上越市鉄道遺産群の現状調査及び評価	ア 現状把握 イ 課題抽出 ウ 価値の評価	(2) ニーズ調査・事例検討	ア 鉄道遺産群活用策検討のためのニーズ調査 イ 直江津D51レールパークの魅力・集客向上のためのニーズ調査及び参考事例の検討
-----------------------	-----------------------------	----------------	---

(3) 上越市鉄道遺産群活用検討委員会の開催	ア 関連企業、関係団体、有識者等の意見集約（全5回）
------------------------	----------------------------



目的

- ・うみがたりに隣接する直江津屋台会館と海浜公園の**地理的利点を生かした新たな賑わいや、観光産業を創出するための収益化のスキーム構築、直江津地域の一体的なエリアマネジメントを担う持続可能なまちづくり組織**の立ち上げを目指す。

社会実験スキーム



春日山

観光地域づくりコンセプト

義の心と強さに出会う「謙信公の春日山城」

【春日山地域の将来イメージ】



※「国土地理院地図」を基に作成

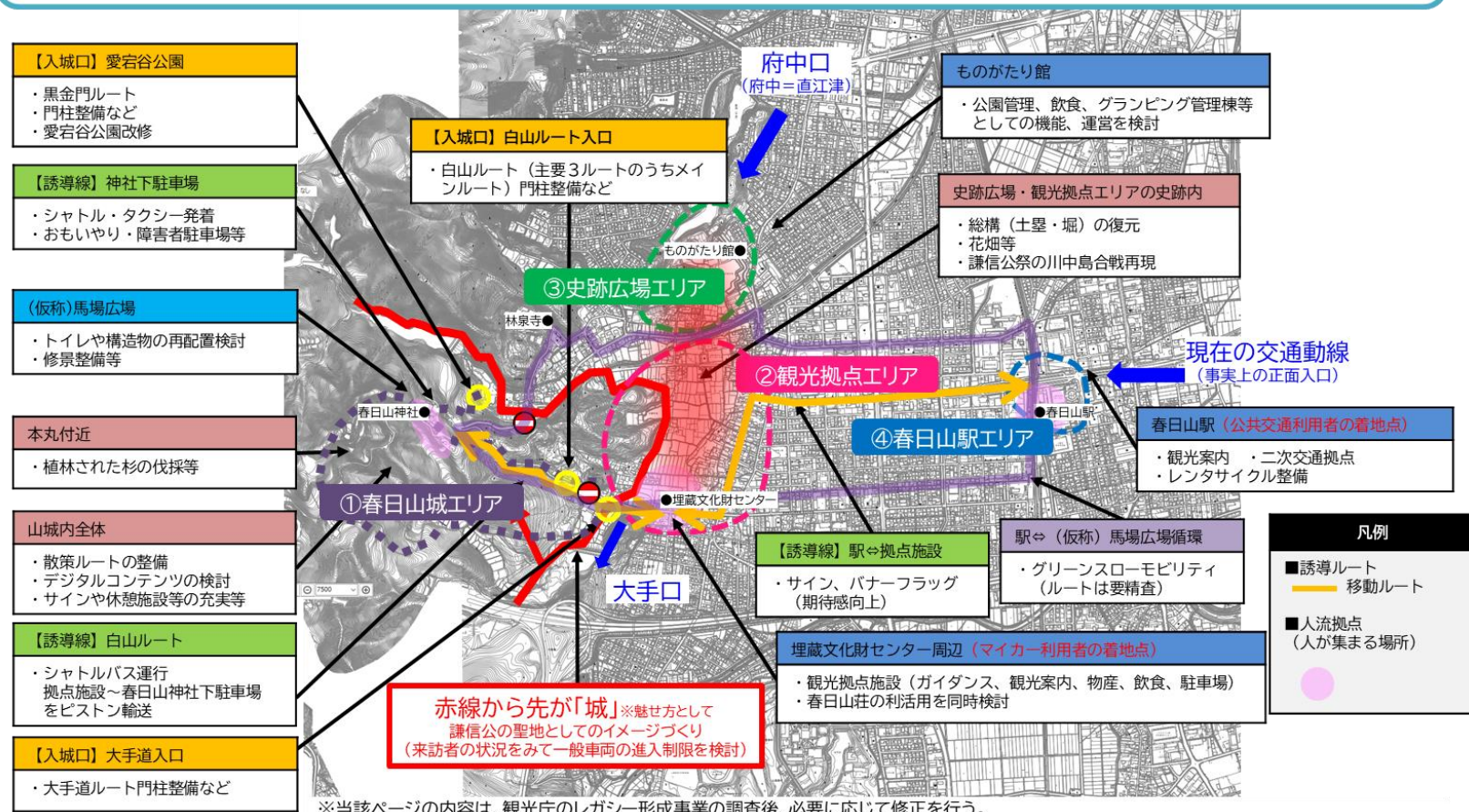
主な施策

- 植林された杉の伐採
- 春日山城跡の(仮称)馬場広場改修
- 総構の堀と土塁の復元
- 観光拠点となる施設整備

春日山地域：施策展開図

○ 観光地域づくりコンセプトである「義の心と強さに出会う「謙信公の春日山城」」の実現に向け、地域資源・エリア特性に沿って事業を展開する。

【概算事業費3,680百万円】



※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、必要に応じて修正を行う。
※計画期間である令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とし、施策の事業化にあつては、財源及び優先順位の検討により実施を判断する。

説明

- 春日山地域では、春日山城跡において、植林された杉を伐採し、現存する最古の写真の姿(約100年前)に復元する。
- 観光庁が実施する「レガシー形成事業」と連携し、散策道や古道、総構等の整備計画の検討を行い、当該計画に基づく整備を行う。
- 地域全体では、統一された空間づくりに向けてイメージ戦略を検討するとともに、観光コンテンツの創出や観光拠点施設、二次交通、サイン等の受入環境の整備を行う。また、春日山城跡や観光関連施設の維持管理等を行う組織の検討を行う。

高 田

観光地域づくりコンセプト

雁木でつながる「花咲く共助の城下町」

【高田地域の将来イメージ】

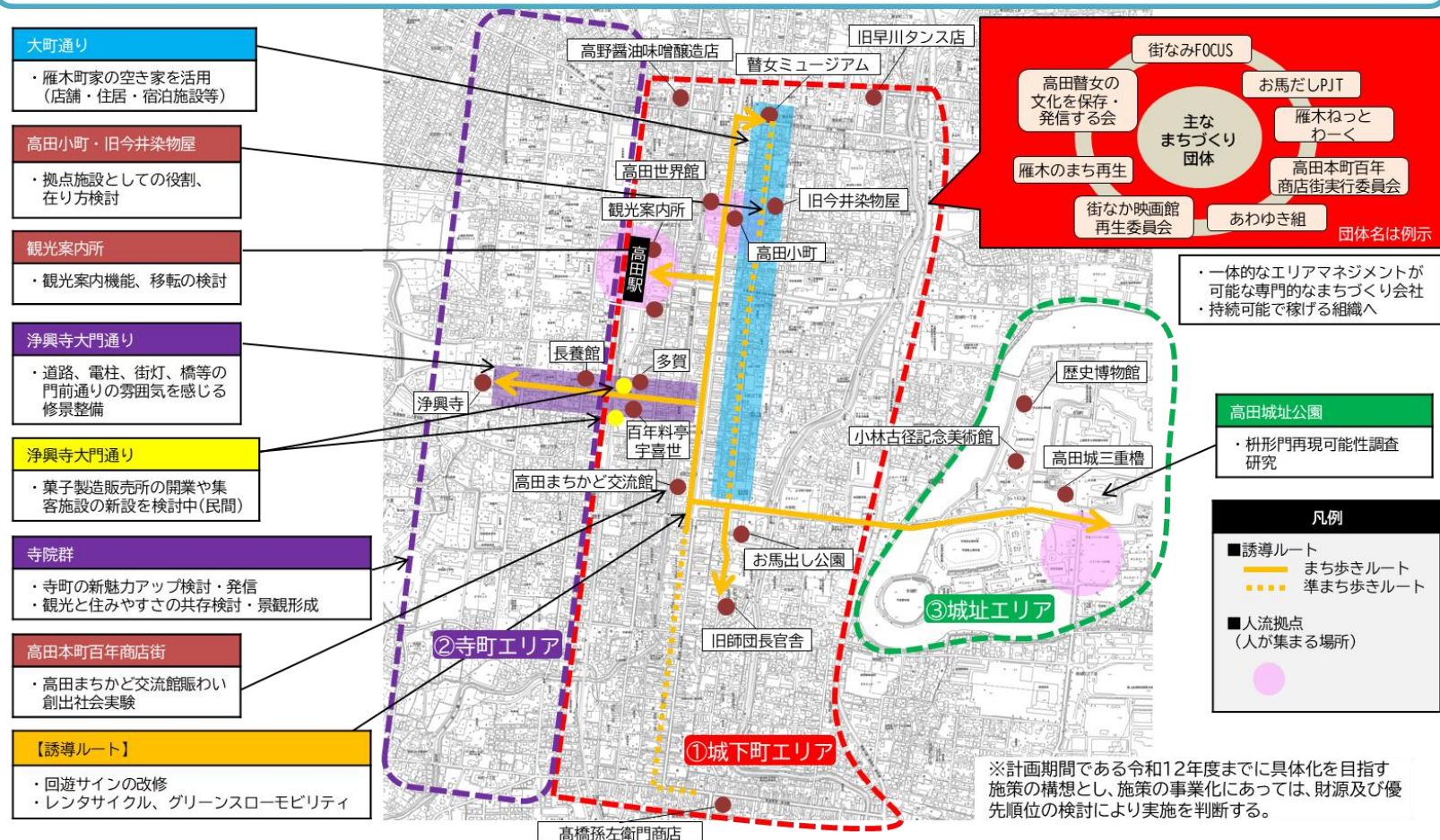


主な施策

- 雁木・町家の保全の
取り組む持続可能な
まちづくり組織の
検討
- 観光案内在り方検討
- 浄興寺大門通りの景
観整備
- 高田城枡形門再現可
能性調査研究

高田地域：施策展開図

○ 観光地域づくりコンセプトである”雁木でつながる「花咲く共助の城下町」”の実現に向けて、地域資源・エリア特性に沿って事業を展開する。
【概算事業費 234百万円】



説明

- 雁木町家の空き家の活用や歴史・文化の継承に取り組むまちづくり団体の活動を持続可能とするため、体験コンテンツの造成や情報発信等の事業により収益強化する。将来的に、一体的なエリアマネジメントができる組織の設立を目指す。
- 「花の寺町」、「寺町でカフェ」など、寺町の魅力アップや景観形成に向けた検討を地域と行う。また、浄興寺大門通りの修景整備を行う。
- 高田城枳形門について、新たな資料の調査や課題の抽出など、再現の可能性について調査研究する。

「地域」について思っていること

これからより良い地域のための前向きな話し合いを行っていくために、委員間でお互いの考えの共有を図ります。

◎発言テーマ：地域協議会で話してみたい事

- (例)・地域に期待すること
- ・地域で関心のあること
 - ・地域で心配なこと
 - ・地域で知りたい事
 - ・参加している地域での活動
 - ・応援したい地域での活動
 - ・地域で大切にしたい場所 など

＜考える視点＞

- ・自分の普段の暮らし（朝から夜、平日・休日…）
- ・近所や周囲の様子（町内会の範囲、同世代）
- ・直江津区全体について

＜考えるヒント＞

1 地域活性化の方向性 構成要素

＜キャッチフレーズ＞

人とひとを、人とまちをつなぎ、住み働く人が輝き、
訪れる人を魅了するまち「なおえつ」

＜構成要素＞

- ①支え合い、生き生きと暮らせるまち・直江津
- ②安心安全、快適で開かれたまち・直江津
- ③誰もが活躍できるまち・直江津
- ④魅力と活力があふれるまち・直江津
- ⑤次代を担うひとを育むまち・直江津

2 自主的審議事項

①直江津まちづくり構想について（審議開始日：平成 25 年 2 月 14 日）

【概要】※審議開始時のもの

直江津のまちづくりについて、駅前のにぎわい創出、駅前と商店街の活性化、朝市や歴史的建造物の観光PR、駐車場不足の問題、地域に暮らす人々の生活面の充実など、直江津が抱える様々な課題を総合的に検討するもの

②地域ぐるみの防災活動の推進について（審議開始日：令和 5 年 10 月 10 日）

【概要】※審議開始時のもの

直江津区は津波や水害等のリスクが高い地域であることから、地域防災力の維持・向上のために実効性のある自主防災組織の再構築に向けて協議・検討するもの